

松坂誠應	高次脳機能障害者の年間発症数の推定と生活実態－追跡調査の結果より	日本リハビリテーション医学会		神戸
蜂須賀研二	高次脳機能障害と自動車運転	第12回認知神経科学学会	2007.7.	福岡
中島恵子	Neuropsychological Rehabilitation on Higher Brain Dysfunction with Chief Complaint of Memory Disturbance	世界老年精神医学会	2007.10.15-16	大阪

#### 大分県高次脳機能障がい者のニーズの把握のための調査 2007『まとめ』

厚生労働省の5年間にわたるモデル事業終了後(九州では産業医科大学が受託)、各県での取り組みが開始され大分県でも、平成18年度から『大分県高次脳機能障がい支援検討委員会』が組織されました。その事業の一環として、大分県高次脳機能障害連絡協議会が県から委託を受け、『高次脳機能障がい者のニーズの把握のための調査』が行われました。県内にお住いの高次脳機能障がいと診断されている方を対象に、平成18年12月1日から平成19年2月28日までの3ヶ月をかけて行われました。

アンケートでは、県内のほとんど全ての病院と施設、及び家族会等を通して行われました(予備調査で約540ヶ所に配布、最終的には約90名から聞き取り調査を行いました)。この報告書はそれをまとめたものです。アンケートに御協力頂いた当事者と御家族の方々及びスタッフの方々に厚くお礼を申し上げます。なお、今回の調査は純粋に外傷だけでなく、その他の原因(例えば、低酸素脳症、ウィルス脳炎、脳血管障害等)に起因する場合も含んでいます。これは、この障がいでお悩みの方からの貴重な情報を少しでも多くお聞きしたいという観点からです。

アンケート内容が多岐に渡り、一言でまとめることは不可能ですが、まだまだ、『高次脳機能障がい』に対する理解が十分ではなく、御家族が抱え込んでいる実態がみえてきました。目に見えない障がいである高次脳機能障がいに対して、『当事者の気づきと周囲の理解』をいかにして広げてゆくかが大切と思われます。インフォームド・コ・オペレーションに基づき、各職種が縦横無尽にネットワークを組み、障がいをお持ちの方に何をすべきかを見極める必要があります。

この調査がきっかけとなって、大分県民及び医療・福祉スタッフへの啓発となることを

期待すると共に、県内にお住いで表に出てこない障がい者の方々に対して、行政を含めて『皆で支える』支援体制が組まれるように努力したいと考えています。

(武居光雄)

佐賀県高次脳機能障害者支援に関するアンケートについて

○アンケート対象機関：県内の脳神経外科・精神科・神経内科・リハビリテーション科を標榜する91の医療機関

○質問項目

1 高次脳機能障害の受け入れ経験の有無

2 今までの受け入れ人数

3 高次脳機能障害の受け入れの可否

4 受け入れ可の場合

(1) 受け入れ対応可の項目(重複回答可)：急性期治療、診断・評価、リハビリ訓練・維持的通院・維持的入院・その他

(2) 実際携わっている担当科とスタッフの職種・人数

○アンケート集計結果

：91医療機関中、回答があったのは66医療機関(回答率73%)

・受け入れ経験のある医療機関：40

・受け入れ可能と回答した医療機関：38

(対応可の項目毎の医療機関数)

急性期治療	診断・評価	リハビリ訓練	維持的通院	維持的入院	その他
15医療機関	16医療機関	30医療機関	22医療機関	24医療機関	2医療機関

・受け入れが難しいと回答した医療機関：2

・受け入れ不可と回答した医療機関：26

(浅見豊子)

高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究

分担研究者 太田令子  
千葉県千葉リハビリテーションセンター  
地域連携部長

研究要旨

千葉県という一つの自治体の中で、高次脳機能障害支援普及事業が定着しかつ広がりを持たせるためには、千葉県の支援拠点機関として、医学的評価・診断および対応する支援プログラムを整理していく必要がある。小児および成人リハプログラム、社会復帰・生活支援の各プロジェクトでは、各コーディネーターのもと、これまで支援拠点機関として蓄積してきた実績を、目的に応じた形に加工および整理していく作業を始めた。

A. 研究目的

以下のことを実施することでネットワークが具体化することを目的として、本研究を実施する。

(1)モデル事業以来、千葉県の支援拠点機関として蓄積してきた神経心理学的検査法の結果および訓練プログラムをデータベース化していくこと、(2)小児においては昨年度までに作成した各種支援の効果を確認する作業の開始すること、(3)社会復帰・生活支援においては支援後に効果測定を実施し支援プログラムの妥当性を検討すること、(4)地域支援においては当該障害者の生活圏域で支援機関となりうる事業所とともに当該障害者支援のプログラムを作成すること。

B. 研究方法

各目的別に以下の作業を進める。(1)データベース化の初期作業として、ファイルメーカーでデザインされた各種検査結果を、入院患者から入力を開始。(2)病棟アセスメントシートの使用と学校支援後6ヶ月家族アンケートの実施およびこれまでの訓練プログラムの目標別整理。(3)当事者・家族も含めた評価会議を開催し、変化を確認しあう場とする。(4)処遇困難者を抱える施設職員と拠点機関専門職員および関係機関との合同症例検討会を継続的に開催。

C. 研究結果

(1)入院患者に関しては年度内にはほぼ入力完了  
(2)中間のまとめ作業 (3)中間のまとめ作業(4)平成20年度5月に地域報告会開催予定

D. 健康危険情報

特に無し

E. 研究発表

第35回日本小児神経外科学会：急性期医療終了後の小児頭部外傷後高次脳機能障害22例の動向：後方支援機関からの報告

第44回リハビリテーション医学会①外傷性脳損傷後高次脳機能障害におけるスクリーニングテストとしてのRBANSの有用性②当センター退院後の高次脳機能障害者生活実態調査報告③脳外傷児のWMS-RとWISC-IIIの検討

4th ISPRM in Korea：Eye-movement/judgement training by PC software may improve higher cognitive function：Preliminary study by Neuropsychological and NIRS evaluation

第31回日本高次脳機能障害学会：①小児の高次脳機能障害と支援②脳血管障害に起因する成人右利き交叉性失語症6症例の検討-Marienらの主張を巡って③風景を手がかりとした言語メモが移動場面で奏功した道順障害例④小児高次脳機能障害に対する病棟用アセスメントシートの試用⑤受傷後長期経過した外傷性脳損傷患者へのメール送信訓練を活用した記憶の補償手段の導入

職業リハビリテーションの研究発表会：高次脳機能障害を有する二分脊椎者への就労支援

障害者職業総合センター専門部会ヒアリング：千葉リハにおけるトータルパッケージの活用

リハビリテーションちば看護研究会「高次脳機能障害を注する患者への支援の現状と課題：社会復帰への支援～肢体不自由者更生施設の取り組みから～」

平成 19 年度千葉県高次脳機能障害支援普及事業実績(平成 20 年 2 月 29 日現在)

1. 支援拠点機関事業実績

実績分類 実施月	成人		電話 相談 のみ	小児	更生園	支援者 合計	市町村等 訪問機関数	外部者対象研修会	
	入院	外来						開催数	参加人数
H19.4月	65	68	20	36	39	228		1	12
H19.5月	71	79	18	33	48	249		2	111
H19.6月	73	77	30	27	44	251	6	3	176
H19.7月	75	86	14	32	54	261	5	2	130
H19.8月	57	83	13	36	50	239	4		
H19.9月	55	83	13	33	50	234		2	133
H19.10月	70	81	21	30	46	248	5	3	391
H19.11月	70	78	15	22	52	237	8	2	129
H19.12月	83	78	10	23	46	240		4	292
H20.1月	79	68	22	26	47	242	9	2	235
H20.2月	79	74	16	26	43	238	9	1	172
合計 実人数	259	151	192	61	102	765	46	19	1373

電話相談のみ：機関の紹介や制度に関する情報提供・相談のみで、外来等につないでいないもの  
 更生園：肢体不自由者更生施設で、入園者および相談窓口での対応者  
 市町村等訪問機関：市町村担当窓口および保健センター、中核地域生活支援センターなどを含む  
 外部者対象研修会：主催が千葉県支援拠点機関である千葉リハビリテーションセンターでなくても、講師派遣等で協力した場合も含む

2. 平成 19 年度支援拠点機関高次脳機能障害支援普及事業実施項目(別紙作業工程表参照)

事業推進プロジェクト・班

広報・啓発班

事業内容：パンフレット「高次脳機能障害ってなあに？(成人編・小児編)」1万部増刷

広報活動と研修会を開催。今年度の傾向として、市町村等や他府県主催の研修会に、支援拠点機関職員が講師として協力する機会が増えた。

ホームページのリニューアル：各種研修会案内および「こ～じのう掲示板」の掲載

市町村相談支援班

事業内容：障害者相談センターの市町村への援助指導事業と協働で支援活動を実施。2巡目ということもあり、地域生活の相談支援に関わる機関にも広報活動を展開し始めた。

市町村からの依頼で、関係者への研修講師派遣3件

地域サポート機関と共同で、支援困難事例1～2例の支援計画作成し、関係機関との連携の基カンファレンスを1回/月のペースで開催。平成20年5月頃をメドに、支援経過のまとめを報告する計画。

地域生活復帰支援プロジェクト

事業内容：支援プログラムの効果判定→平成18年度作成した社会生活力評価表を基に、個別支援プログラムの効果を判定する

家族支援→園内ケース会議に本人および家族も参加し、本人の障害や力量の理解を進める場

とする

#### 成人高次脳リハビリプログラミングプロジェクト

事業内容：平成 18 年度提示したフロー図に従って、当該障害を持つ成人利用者の処遇検討  
障害評価とこれまでの支援の効果判定・支援内容の検討を開始  
実績票記入をきっかけに、患者データの管理を再確認  
地域関係機関とのケア会議の開催→当センター利用者が 5 名、その他が 3 名  
外来グループ終了後、就労につながる前の段階で、ボランティアとして活動する当事者をサ  
ポートする、障害者ボランティアサポート事業への協力

#### 小児高次脳リハビリプログラミングプロジェクト

事業内容：小児病棟用アセスメントシートの使用と中間まとめ  
小児リハ障害別、目的別プログラムの整理開始  
これまでの社会復帰支援(学校訪問等)の 6 カ月効果判定：5 家族へのアンケート調査  
学校教職員との連携：学校訪問や連携会議を 3 件について開催  
家族支援：交流会を 2 回開催(2 回目は 3 月 22 日全体交流会と合同で開催)  
東京・千葉・埼玉・茨城等の家族と本人の交流会(ハイリハキッズ)を 4 回開催

#### 就労移行支援プロジェクト

事業内容：障害者職業総合センター版就労支援のためのチェックリストを使用して評価を実施  
3 ヶ月毎の支援プログラムに基づいた、本人へのフィードバック会議 4 件実施  
就労関係機関および家族とのケア会議を 4 件開催  
作業遂行に関するフィードバック方法についての検討を、事業団事務局の協力を得て 3 名に  
ついて実施

## 「高次脳機能障害者に対する支援ネットワークの構築に関する研究」

(H18-こころ-一般-008)

## 分担研究者

厚生会木沢記念病院・独立行政法人自動車事故対策機構中部療護センター 篠田 淳

## 研究要旨

岐阜県における高次脳機能障害者支援ネットワークの構築と高次脳機能障害について医療従事者・行政関係者・当事者家族の理解を深めるための普及啓発を目的とし、高次脳機能障害支援普及事業と連動して、支援対策推進委員会の設置・支援コーディネーターによる相談支援・研修会の開催を行った。

に向けた研修会や講演会を行う。

## A. 研究目的

1. 岐阜県における高次脳機能障害者支援ネットワークの構築
2. 高次脳機能障害について医療従事者・行政関係者・当事者家族の理解を深めるための普及啓発

## B. 研究方法

岐阜県および岐阜県精神保健福祉センターが高次脳機能障害支援普及事業を実施し、支援拠点機関を岐阜県精神保健福祉センターとする。また、木沢記念病院を支援病院とし、精神保健福祉センターと連携して、相談支援や普及啓発活動を行うこととする。

1. 高次脳機能障害支援対策推進委員会の設置
 

高次脳機能障害者支援の推進を図るため、関係機関や有識者による委員会を設置し、高次脳機能障害の普及啓発および関係機関の連携方策を検討する。
2. 支援コーディネーターによる相談支援
 

支援コーディネーターが当事者家族や関係機関職員に対して、支援拠点機関・支援病院・小規模作業所において、電話または面接により専門的な見地から相談支援を行う。
3. 普及啓発事業
 

高次脳機能障害に関する普及啓発のために、医療従事者・保健師・市町村職員・一般県民に

## C. 研究結果

1. 高次脳機能障害支援対策推進委員会の設置・開催

平成19年6月に関係機関や有識者に委員を委嘱し(表1)、平成19年9月5日に平成19年度第1回の委員会を開催した。平成18年度・平成19年度の支援普及事業での取り組みや当県の現状について、支援拠点機関および支援病院から報告し、委員から意見を求めた。第2回会議を平成20年2月29日に行なった。

2. 支援コーディネーターによる相談支援

- 1) 支援拠点機関・精神保健福祉センターでの相談支援

精神保健福祉センターでは普及事業に関わる担当職員を平成19年度から1人増員し、事業関連の業務に当たるとともに、センターへの電話相談に対応した。また、支援病院との連携も行った。

- ア. 精神保健福祉センターへの電話相談

電話相談は平成19年4月から平成20年1月までで9件であった。相談があった際には必要に応じて支援コーディネーターの相談日を案内し、センターの職員から支援コーディネーターに連絡がなされた。

- イ. 専門相談窓口

支援コーディネーターは支援病院である木沢記念病院に所属しており、毎月1回支援コーディネーターが精神保健福祉センターに向いて相談を受ける日を設けている。平成19年4月から平成20年1月までに精神保健福祉センターで面談したケース8ケース、延べ20回の面談を行った。支援病院を受診しその後の相談をセンターで行うことにしたケースが多かった。

## 2) 作業所での相談支援

支援コーディネーターの小規模作業所かけはし西岐阜への訪問を本年度も継続した。訪問時には毎回2人の通所者やその家族に個別面談を実施し、本年度は1月までに21件の面談を行った。個別面談の後は指導員とケース会議を行ったり作業所の状況を聴き取ったりした。また、研修会の一部を当事者が担当し、指導員や当事者と話し合っ準備を行うこともあった。

## 3) 支援病院・木沢記念病院での支援コーディネーターの活動

支援コーディネーターは支援病院において、当事者や関係機関からの電話問い合わせに随時対応する他、脳外科外来への受診の調整をしたり、関係機関との連携を図ったりした。また、ケースによっては予約制で個別面談を行った。加えて、高次脳機能障害の訓練に関わるOT・STと、リハビリ通院しているケースの検討や情報交換を定期的に行った。

支援病院での相談・受診件数を表2に示した。外来受診者と検査件数は前年とほぼ同数であった。電話等での対応件数は前年に比して30%増加した。新規の相談ケースでは20代～50代の頭部外傷後で、居住地域は中濃地域と岐阜地域のケースが多く、まずは精査や診断を希望されることが多かった(表3)。

## 3. 普及啓発事業

支援普及事業支援拠点機関・支援病院・岐阜県医師会・日本損害保険協会が主催あるいは助成し、以下の研修会および講演会を開催した。

### 1) 高次脳機能障害普及啓発保健所・保健センタ

#### 一向け研修会

平成19年10月26日(金) 福祉農業会館研修室

平成19年11月2日(金) 土岐市文化プラザ研修室

「高次脳機能障害の特性に応じた支援」

岐阜医療科学大学保健科学部看護学科教授 阿部順子

保健師を中心に延べ約30名が参加

## 2) 一般県民向け講演会

平成19年度岐阜高次脳機能障害フォーラム

平成20年1月26日(土) 大垣市情報工房ス  
インクホール

### 第1部 岐阜県高次脳機能障害支援講演会

「高次脳機能障害の診断と評価」

松阪中央総合病院リハビリテーション科  
部長 太田喜久夫

「生活支援・在宅ケアの試行から」

名古屋市総合リハビリテーションセンター  
生活支援課 松尾 稔

### 第2部 岐阜脳リハビリテーション講習会

「高次脳機能障害 どのように対応するか」

東京慈恵会医科大学リハビリテーション  
医学講座助教 橋本圭司

「当事者作業所の紹介・当事者へのインタビュー」

医療福祉関係者・当事者家族など約200名  
が参加

## 3) 医療機関向け研修会

平成19年度岐阜県医師会高次脳機能障害支  
援対策事業研修会

平成20年2月16日(土) 岐阜県医師会館

「神経画像からみた高次脳機能障害」

木沢記念病院副院長・中部療護センター長  
篠田 淳

「脳外傷などによる高次脳機能障害の診断と  
リハビリテーション」

神奈川リハビリテーション病院リハビリ  
テーション局長 大橋正洋

医師・看護師約100名が参加

#### D. 健康危険情報

特になし

#### E. 研究発表

##### 1) 著書

1. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: Overview of MR diffusion tensor imaging and spatially normalized FDG-PET for diffuse axonal injury patients with cognitive impairments. *Novel Trends in Brain Science. Brain Imaging, Learning and Memory, Stress and Fear, and Pain.* In Onozuka M, Yen CT (ed), Springer, Tokyo, 2008, pp25-35

##### 2) 論文発表

1. Yasokawa Y, Shinoda J, Okumura A, Nakayama N, Miwa K, Iwama T: Correlation between diffusion-Tensor magnetic resonance imaging and motor-evoked potential in chronic severe diffuse axonal injury. *J Neurotrauma* 24: 163-173, 2007
2. Nakashima T, Nakayama N, Miwa K, Okumura A, Soeda A, Iwama T: Focal brain glucose hypometabolism in patients with neuropsychologic deficits after diffuse axonal injury. *Am J Neuroradiol (AJNR)* 28: 236-242, 2007
3. Kato T, Nakayama N, Yasokawa Y, Okumura A, Shinoda J, Iwama T: Statistical image analysis of cerebral glucose metabolism in patients with cognitive impairment following diffuse traumatic brain injury. *J Neurotrauma* 24: 919-926, 2007
4. Hashimoto K, Okumura A, Shinoda J, Abo M, Nakamura T: Tensor magnetic resonance imaging in a case of mild traumatic brain injury with lowered verbal intelligence quotient. *J Rehabil Med* 39: 418-420, 2007

5. Ohira H, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Iidaka T, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Imaging brain and immune association accompanying cognitive appraisal of an acute stressor. *Neuroimage* 39: 500-514, 2007

6. 篠田 淳: 高次脳機能障害について. *メンタルレター* 6: 4-5, 2007
7. 篠田 淳: 平成 18 年度岐阜県高次脳機能障害支援事業報告. 厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業 -高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究- (H18-こころ-一般-008)」平成 18 年度 総括・分担研究報告書, 2007, pp80-86

##### 3) 学会発表

1. 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳, 矢野大仁, 岩間 亨: 慢性期重症頭部外傷例に対する髄腔内バクロフェン療法の経験. 第 72 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会. 岐阜市, 2007.4.14
2. Ohira H, Matsunaga M, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Serotonin transporter gene polymorphism can explain brain and physiological reactivity to acute stress. The 13<sup>th</sup> Annual Meeting on Human Brain Mapping. Chicago, 2007.6.10-14
3. 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳, 矢野大仁, 岩間 亨: 慢性期重症頭部外傷例に対する髄腔内バクロフェン療法の 1 経験. 第 57 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2007.6.14
4. 加藤貴之 (教育講演): 脳機能局在の基礎知識 -脳 CT, MRI の読み方-. 平成 19 年度第 1 回岐阜県嚙下障害研究会. 美濃加茂市, 2007.6.23
5. 奥村 歩 (教育講演): 最新神経画像で見る運動機能. 第 1 回岐阜県脳血管リハビリテーション研究会. 美濃加茂市, 2007.7.28



6. 奥村竜児, 田中祐樹, 福山誠介, 奥村 歩, 篠田 淳: 脳外傷認知機能障害例に対する脳血流定量 SPECT 賦活試験を行なった一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
7. 松本 淳, 鈴木雅雄, 奥村竜児, 福山誠介, 兼松由香里, 加藤貴之, 岡 直樹, 奥村 歩, 篠田 淳: 鍼治療による能血流を Functional SPECT にて測定した重症頭部外傷後遷延性意識障害の 1 例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
8. 奥村 歩, 篠田 淳, 岡 直樹, 加藤貴之, 中島利彦, 中山則之, 岩間 亨: FDG-PET を用いた遷延性意識障害の概念の構築. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
9. 鈴木雅雄, 松本 淳, 八十川雄図, 西山紀郎, 岡 直樹, 加藤貴之, 兼松由香里, 奥村 歩, 篠田 淳: 交通事故頭部外傷による遷延性意識障害に対する鍼治療の試み. 仙台市, 2007.8.5-6
10. 岩井香織, 田本織江, 浅野愛子, 和田哲也, 榎林 優, 岡 直樹, 奥村 歩, 篠田 淳: トラクトグラフィーに着目した上肢機能向上を図った一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
11. 奥村由香, 奥村 歩, 豊島義哉, 篠田 淳: Vegetative state の残存能力に対する音楽療法の効果. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
12. 丹羽志保, 青木智子, 吉池佳代, 和田哲也, 榎林 優, 奥村 歩, 篠田 淳: 随意性の改善に伴い振戦が増加した 1 例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
13. 青木智子, 丹羽志保, 吉池佳代, 和田哲也, 西村和好, 榎林 優, 織田恵理子, 奥村 歩, 篠田 淳: 自己実現の欲求に着目した介入で易怒性が改善した一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
14. 酒向圭介, 榎林 優, 豊島義哉, 奥村由香, 奥村 歩, 篠田 淳: 重度筋緊張亢進患者に対する理学療法. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
15. 豊島義哉, 酒向圭介, 奥村由香, 辻井知香子, 平林美樹, 田中秀美, 奥村 歩, 篠田 淳, 岩間 亨: 開口を下顎反射亢進抑制に利用し、徐々に経口摂取が可能となった一例. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
16. 篠田 淳 (シンポジウム): 中部療護センターの事業紹介. 第 16 回日本意識障害学会. 仙台市, 2007.8.5-6
17. 八十川雄図, 奥村 歩, 篠田 淳: BEAT を用いた functional mapping. 第 13 回東海脳神経核医学研究会. 名古屋市. 2007.8.18
18. 奥村 歩 (特別講演): 脳と心を画像で見る. 第 1 回精神ニューロイメージング講演会. 京都市, 2007.8.23
19. Okumura Y, Okumura A, Toyoshima T, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of regional cerebral blood flow change during music therapy for persistent consciousness disturbance using ECD-SPECT with brain easy analysis tool (BEAT). The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
20. Toyoshima T, Okumura A, Shinoda J, Yamada J, Iwama T: The clinical utility of videofluoroscopic examination for the swallowing rehabilitation of severe traumatic brain injury. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
21. Okumura A, Oka N, Kato T, Miwa K, Shinoda J, Yamada J: The clinical utility of MR diffusion tensor imaging and spatially normalized PET to evaluate memory and cognitive impairment. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of

- Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
22. Kasuya Y, Okumura A, Oka N, Shinoda J, Yamada J: The detection of abnormal neural network after traumatic brain injury using MR diffusion tensor imaging. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei, 2007.9.13-16
  23. Suzuki M, Matsumoto J, Yasokawa YT, Oka N, Nishiyama N, Okumura R, Fukuyama S, Kato T, Kanematsu Y, Okumura A, Shinoda J: Acupuncture as a possible treatment for patients in the vegetative state. The 2<sup>nd</sup> Congress of International Society of Reconstructive Neurosurgery & the 5<sup>th</sup> Scientific Meeting of the WFNS Neurorehabilitation Committee. Taipei. 2007.9.13-16
  24. 篠田 淳 (招待講演): 高次脳機能障害について. 2007 年度三重高次脳機能障害者 (児) リハビリテーション講習会. 津市, 2007.12.2
  25. 豊島義哉, 辻井知香子, 平林美樹, 岡 直樹, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳: 開口を咬反射亢進抑制に利用し, 徐々に経口摂取が可能となった 1 例. 第 58 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2007.12.5
  26. 鈴木雅雄, 松本 淳, 八十川雄図, 岡 直樹, 西山紀郎, 奥村竜児, 福山誠介, 加藤貴之, 兼松由香里, 奥村 歩, 篠田 淳: 交通事故頭部外傷による遷延性意識障害に対する鍼治療の試み. 第 58 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2007.12.5
  27. 加藤貴之: Statistical image analysis of cerebral glucose metabolism in patients with cognitive impairment. 平成 20 年岐阜脳神経外科カンファランス. 岐阜市, 2008.1.27
  28. 篠田 淳 (教育講演): 神経画像から見た高次脳機能障害. 平成 19 年度岐阜県医師会高次脳機能障害支援対策事業研修会. 岐阜市, 2008.2.16

表 1：岐阜県高次脳機能障害支援対策推進委員会委員

木沢記念病院副院長・中部療護センター長	篠田 淳
木沢記念病院臨床心理士・支援コーディネーター	宇津山 志穂
岐阜医療科学大学保健科学部看護学科教授	阿部 順子
岐阜県医師会常務理事	堀部 廉
岐阜総合医療センター救命救急センター主任医長	中島 利彦
松波総合病院リハビリ病棟部長	川口 雅裕
NPO法人ぎふ脳外傷友の会長良川理事長	西村 憲一
地域生活支援センターひびき管理者	臼井 潤一郎
岐阜障害者職業センター所長	児玉 義之
健康福祉部保健医療課長	田中 剛
健康福祉部障害者福祉課長	松葉 英之
中濃保健所長	出口 一樹
東濃保健所長	久保田 芳則
精神保健福祉センター所長	丹羽 伸也

<事務局>

精神保健福祉センター保健福祉課長	可児 広
精神保健福祉センター課長補佐	林 節子
精神保健福祉センター主事	渡邊 鮎美

表 2：木沢記念病院における相談・受診件数(延べ件数)

	電話等での問い合わせ 他機関との連携	検査	面接	外来受診者
平成 19 年 4 月	20	12	4	4
5 月	29	7	4	9
6 月	16	16	4	4
7 月	10	9	4	7
8 月	8	17	8	9
9 月	6	12	3	1
10 月	16	8	4	6
11 月	4	7	3	2
12 月	11	7	5	3
平成 20 年 1 月	16	5	3	5
合計	136	100	42	50

表3：木沢記念病院における新規相談ケースの詳細(平成19年4月～平成20年1月)

年齢	15歳以下	3
	16歳～19歳	5
	20代	3
	30代	4
	40代	4
	50代	6
	60代	1
	70代以上	1
	不明	5
	合計	32
性別	男	20
	女	8
	不明	4
	合計	32
居住地域	中濃	7
	西濃	5
	東濃	1
	岐阜	7
	飛騨	3
	県外	6
	不明	3
	合計	32

原因	頭部外傷	22
	脳血管障害	6
	低酸素脳症	1
	その他	2
	不明	1
	合計	32
受傷から	6ヶ月以内	11
	1年以内	6
	1年以上	12
	不明	3
	合計	32
相談内容	受診や診断	15
	訓練	2
	入院や入所	3
	社会復帰	2
	福祉制度	3
	在宅生活	3
	その他	4
合計	32	
電話元	支援病院内	4
	他医療機関	13
	公的機関	3
	当事者家族	12
	合計	32

厚生労働科学研究費 こころの健康科学研究事業  
「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」  
平成 19 年度 分担研究実績報告書

分担研究者 太田 喜久夫 三重県厚生連松阪中央総合病院リハビリテーション科・部長

研究要旨：三重県に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させるために三重県高次脳機能障害支援普及事業を継続し、相談支援体制連絡調整委員会会議を3回開催した。報告された就労支援帰結成果や研修講演を基に三重県内で支援ネットワーク確立のための活動を行った。

#### A. 研究目的

三重県内に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させるために必要な情報を発信し共有する。また、東海ブロック内での連携を強め、その成果を基に三重県での高次脳機能障害支援普及事業を強化する。

#### B. 研究方法

高次脳機能障害者の相談支援に対応し、個別性に配慮して最適な訓練や支援が受けられるように支援体制を整備し、その後の帰結結果を検討する。得られた成果をもとに、三重県下での支援ネットワークを強化する。

(倫理面への配慮)

本研究は高次脳機能障害支援ネットワーク確立のための支援が主体であり、原則として個人情報を取り扱わないのでプライバシーが損なわれたり不利益を被ることはない。また、アンケート調査については、個人調査が必要なおときには調査対象者及び家族等から、文書によるインフォームドコンセントを徹底し、被験者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびにいかなる不利益も受けないように十分に配慮した。また、個人が特定できないように格別の注意を払った。

#### C. 研究結果

平成 19 年度三重県高次脳機能障害支援普及事業における新規相談件数は電話相談を除き 537 件で、新規相談者実数は 84 名であった。継続的相談者数は 158 名であり、合計 242 名に対して生活・就労・就学支援を実施した。また、相談支援体制連絡調整委員会会議を3回開催し、本事業での支援状況の情報を共有し、県内の支援組織や各種団体との連携強化について意見交流を行った。啓発・普及活動においては、高次脳機能障害者地域支援セミナーを2回開催し、高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会を3回開催した。その他、第3回東海ブロック連絡協議会を三重県で開催し、社会行動障害を有する事例検討を通じてブロック内での連携を強化した。研修・視察の受け入れや学会発表を通じて三重県での高次脳機能障害支援の成果について情報を発信した。

#### D. 健康危険情報

該当事項無し

#### E. 研究発表

論文発表

太田喜久夫 パネルディスカッション 頭部外傷・高次脳機能障害のリハビリテーションの実学 三重県高次脳機能障害者生活支援事業の成果と今後の課題ー連続したケアにおける支援コーディネーターの役割ー. Jpn J Rehabil Med 2007;44 :581-587

学会発表

太田喜久夫:高次脳機能障害者生活支援事業の効果と課題ー生活・職能訓練帰結後の連続したケアの構築に向けて 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会 2007年6月(神戸)

**平成19年度 高次脳機能障害支援普及事業 報告**  
**(三重県・三重県身体障害者総合福祉センター)**

**1. 三重県高次脳機能障害支援普及事業の概要**

**<事業実施期間>**

「三重県高次脳機能障害支援普及事業」平成19年4月1日～平成20年2月29日現在

**<実施主体>** 三重県・三重県身体障害者総合福祉センター

**<概要>**

高次脳機能障害支援普及事業での三重県でのシステムを別名、三重県方式と呼称するが、これは「高次脳機能障害者に対して診断、訓練や生活支援（地域生活）をシステマチック（systematic）に包括的リハビリテーションを行うもの」であり、その実施する高次脳機能障害者包括的リハビリテーションネットワークを三重モデルという。

**ア. 拠点病院との連携**

① 松阪中央総合病院

主に急性期リハを担当し、高次脳機能障害診断・外来による認知リハビリテーション及び三重モデルを通過したケースのアフターフォローを実施している。

② 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

主に回復期病棟における入院治療訓練を担当しているが、三重県モデルにおいては、入院による認知リハビリテーションを実施している。

**イ. 三重県身体障害者総合福祉センター(以下「身障センター」)の役割**

身障センターでは、臨床心理士を配置し、神経心理学的評価および認知訓練、職業リハビリテーションを実施している。また、平成16年度からは高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターを配置し、総合的な相談・直接的また間接的な支援、アフターフォローを実施している。機能については、大きく分けて下記の3つになる。

① 県内の高次脳機能障害者(児)からの総合相談窓口

② 生活・社会・職業リハビリテーションを担当

障害者自立支援法の施行にともない、高次脳機能障害者は、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、生活介護での利用となっている。

（総定員 入所40名 日中活動59名の通過型訓練施設）

③ 啓発普及

- ・ 高次脳機能障害者地域支援セミナーの開催 年2回実施
- ・ 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会  
（当事者・家族・支援者対象に平成19年度3回実施＝日本損害保険協会助成）
- ・ 各関係機関（福祉、行政、学校等）を対象とした研修会の開催協力（随時対応）
- ・ 情報発信 身障センターホームページ <http://www.mie-reha.jp/>

**ウ. 医療機関との連携強化**

松阪中央総合病院、藤田保健衛生大学七栗サナトリウムの拠点病院との連携に加え、高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターによる訪問面接などを通じて、北中勢地域の急性期病院（三重県総合医療センター、鈴鹿中央総合病院、鈴鹿回生病院）、回復期病院（菰野厚生病院）、精神科病院（鈴鹿厚生病院）、南勢地域の協力病院（大台厚生病院）など、医療機関との連携も拡大している。

## 2. 相談支援体制連携調整委員会の開催

高次脳機能障害支援普及事業が円滑且つ適正に運営されるために事業調整委員会が設置されている。委員については、拠点病院医師、三重大学医学部医師、医療相談担当者、行政・労働機関関係者、当事者団体代表などから構成されている。

<平成19年度 相談支援体制連携調整委員会 委員>

所 属・職 名	氏 名
松阪中央総合病院 リハビリテーション科部長	太田 喜久夫(委員長)
藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 病院長	園田 茂(副委員長)
三重大学医学部 神経内科 准教授	成田 有吾
三重大学医学部 脳神経外科 准教授	松島 聡
鈴鹿厚生病院 副院長	川喜田 昌彦
三重 TBI ネットワーク (当事者団体) 代表	古謝 由美
三重県医療ソーシャルワーカー協会 会長	畑中 寿美
三重障害者職業センター 所長	山田 淳
三重県身体障害者更生相談所 所長	野末 孝行
三重県身体障害者総合福祉センター 所長	山本 仁
三重県身体障害者総合福祉センター 診療チームマネージャー	神田 仁
三重県健康福祉部 障害福祉室 室長	脇田 愉司
(事務局) 三重県健康福祉部 障害福祉室 副室長	石坂 すみ
(事務局) 三重県身体障害者総合福祉センター 高次脳機能障害者 (児) 支援コーディネーター	鈴木 真
(事務局) 三重県身体障害者総合福祉センター 高次脳機能障害者 (児) 支援コーディネーター	田森 昌代

<平成19年度 相談支援体制連携調整委員会 開催実績>

開催日 (開催予定日)	場所	委員出席者数
平成19年6月21日	三重県身体障害者総合福祉センター	9名
平成19年12月13日	三重県身体障害者総合福祉センター	9名
平成20年3月13日	三重県身体障害者総合福祉センター	6名

内容としては、高次脳機能障害支援普及事業における事業のあり方について、障害者自立支援法の情報提供、相談・支援状況報告、研修会開催報告などである。

## 3. 啓発・普及活動

### ア. 高次脳機能障害者地域支援セミナー

本セミナーは、「高次脳機能障害」を多角的に研修するために、見識者による基調講演を主たる内容とした研修会である。対象は、医師・PT・OT・ST・MSWなどの医療関係者、市町福祉などの行政関係者、福祉施設職員及び当事者・家族である。

<平成19年度 高次脳機能障害者地域支援セミナー 開催状況>

「第13回高次脳機能障害者地域支援セミナー」

平成19年8月26日(日) 13時～15時 三重総合文化センター 視聴覚室

講師：岐阜医療科学大学 臨床心理士 教授 阿部 順子 氏

脳外傷友の会 三重 TBI ネットワーク代表 古謝 由美 氏

参加者 127名

「第14回高次脳機能障害者地域支援セミナー」



平成20年3月9日(日) 14時～16時 三重県総合文化センター

講師：藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 院長 園田 茂 氏

伊勢志摩障害者就業・生活支援センター センター長 山下 祥子 氏

参加 116名

#### イ. 学会発表

- ① 太田喜久夫：高次脳機能障害者生活支援事業の効果と課題－生活・職能訓練帰結後の連続したケアの構築に向けて 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会 2007年10月(神戸)

#### ウ. 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会の開催

日本損害保険協会助成事業により、三重県高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連携調整委員会に委託された研修事業を、三重県では、当事者・家族を対象としたリハビリテーション講習会として県内各地で実施し、最新情報の提供や相談会を開いた。

<平成19年度 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会 開催実績>

日時	地域	開催場所	参加者数
平成18年11月25日	伊賀地区(伊賀市)	伊賀市文化会館	40名
平成19年12月2日	中勢地区(津市)	三重県身体障害者総合福祉センター 大研修室	81名
平成20年 1月19日	北勢地区(菟野)	けやきホール	83名

#### エ. 講演会・学習会での講演および発表実績

- ① 鈴木 真：平成19年6月18日「ピアサポーター養成講座」  
演題「高次脳機能障害について」参加者18名
- ② 太田喜久夫・園田 茂・古謝 由美・鈴木 真：平成19年7月21日  
「厚生労働科学研究 東海ブロック 高次脳機能障害講演&シンポジウム」  
参加者 106名
- ③ 鈴木 真：平成19年9月29日「脳外傷友の会全国大会」  
演題「就労移行支援について」参加者560名
- ④ 鈴木 真：平成19年10月27日 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会  
演題：「社会保障について」参加者41名
- ⑤ 鈴木 真：平成19年11月4日 地域難病相談会 「相談会」参加者23名
- ⑥ 鈴木 真：平成19年11月15日 介護保険認定調査員現任研修会  
演題：「高次脳機能障害について」参加者 50名
- ⑦ 鈴木 真：平成20年1月11日 四日市市障害者福祉センター 高次脳機能障害セミナー  
演題：「高次脳機能障害者への支援の実際」参加者 35名
- ⑧ 太田 喜久夫：平成20年1月26日 平成19年度岐阜高次脳機能障害フォーラム  
演題：「高次脳機能障害の診断と評価」参加者 221名
- ⑨ 太田 喜久夫：平成20年1月27日 平成19年度大阪府高次脳機能障害支援普及事業  
「高次脳機能障害」医療機関等職員研修会  
演題：「高次脳機能障害 医療機関における地域連携の構築：社会参加に向けての医療機関の支援～三重県の取り組み～」参加者 100名
- ⑩ 鈴木 真：平成20年2月1日 四日市市障害者福祉センター 高次脳機能障害セミナー  
演題：「高次脳機能障害者への支援事例」参加者 32名
- ⑪ 鈴木 真：平成20年2月11日 第7回和歌山県作業所問題研究交流会 分科会  
演題：「高次脳機能障害者への支援の実際と今後の展開」参加者 20名

⑫ 鈴木 真：平成20年2月16日 甲州東海ブロック精神障害者就業セミナー静岡大会  
演題：「高次脳機能障害者への就労支援」250名

#### オ. 視察・研修対応

全国から、高次脳機能障害支援普及事業や地域支援ネットワークの構築などについての視察を受け入れ、対応した。(6月15日滋賀県、9月7日名古屋市総合リハビリテーションセンター、11月21日障害者職業総合センター、3月6日茨城県立リハビリテーションセンター、3月10日国立身体障害者リハビリテーションセンター、3月14日千葉市障害者福祉センター、3月19日かがわ総合リハビリテーションセンター)

#### カ. その他

・第3回東海ブロック連絡協議会の開催

平成19年12月14日 三重県身体障害者総合福祉センター 大研修室 参加者 24名

・新たにパンフレット(社会保障編・家族会編・相談窓口編)を作成し、普及啓発を行った。

#### 4. 平成19年度相談支援状況(平成19年4月1日～平成19年2月29日)

相談件数および相談実数 相談件数 537件(電話問い合わせを除く)

新規相談者実数 84名

(継続的相談者実数 158名) 合計 242名

(1) 新規相談者(N=84) 年齢構成 平均年齢 44.8歳 男性 65名、女性 19名

(2) 新規相談者における原因疾患の内訳

外傷性脳損傷 36名(脳挫傷 32名、DAI 2名、外傷性SAH 2名)

脳血管障害31名、脳腫瘍1名、低酸素脳症4名、脳炎1名、その他(不明も含む)11名

(3) 居住地 三重県内の 市町のうち、11市/14市、5町/15町から相談依頼あり。  
県外1相談依頼あり。

#### 6. 問合せ先

〒514-0113 三重県津市一身田大古曾670-2

三重県身体障害者総合福祉センター 担当 鈴木・田森まで

TEL059-231-0037(生活援助棟直通)

FAX059-231-0694

Eメール [suzuki-s@mie-reha.jp](mailto:suzuki-s@mie-reha.jp) [tamori-m@mie-reha.jp](mailto:tamori-m@mie-reha.jp)



## 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究

分担研究者 種村 純

川崎医療福祉大学 教授

研究要旨 岡山県では川崎医科大学附属病院における高次脳外来の設置、拠点機関での常設電話による電話相談の実施、医療から福祉・就労支援へのサービスフローの形成、など拠点機関において提供するサービスの充実を図ることができた。しかし、岡山県においては拠点機関が県南の岡山市及び倉敷市に位置していることで、県北部の住民へのサービス提供が手薄になっていることが従来から指摘されてきた。県南に位置する拠点機関のみでは県全体を面としてカバーすることは困難であり、他の都府県で試みられているような圏域ごとのエリアに分けた支援体制に移行することが必要とされている。

### A. 研究目的

本研究は岡山県における高次脳機能障害支援拠点機関である川崎医科大学附属病院と社会福祉法人旭川荘おかやま福祉の郷を中心とした、高次脳機能障害者支援のための地域支援ネットワークの形成について実践を報告し、そのノウハウを提供するとともに、ネットワーク形成に関する課題を明らかにすることを目的とする。

### B. 研究方法

本研究は地域支援ネットワークを形成するために認知ワーキンググループでの症例検討会を実施した。また地域リハビリテーション広域支援センターへの普及啓発活動を行うとともに、保健所や市町村への普及啓発活動も併せて実施し、さらに県北における個別支援は県北の諸機関と共同で行うことを通して、地域支援ネットワークの構築に向けた取り組みを試行する。

個人データを調査する際には下記の倫理面での配慮をなす。

(倫理面への配慮)

調査研究は所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施する。調査対象者及び保護者・関係者から、口頭ならびに文書にてインフォームドコンセントを徹底し、調査対象者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。調査対象者の個人情報等に係るプライ

バシーの保護ならびに如何なる不利益も受けなないように十分に配慮した。

### C. 結果

(1) 研修会等の普及啓発活動

#### ① 症例検討会の開催

月に一度症例検討会を実施し(本年度は10回)、毎回10施設程度30人前後の参加があり、適切な訓練や支援方法等について総合的な検討を行っている。また、社会的行動障害に対応した評価、治療介入法について開発に向けてリハビリテーションやアプローチについて勉強会を行った。

#### ② 県主催による高次脳機能障害支援研修の開催

平成19年8月29日に、県主催の高次脳機能障害支援研修会を津山市で開催し、約100人を対象に下記の内容で拠点機関職員が講義を行った。

<研修テーマ>

- ・高次脳機能障害の原因となる疾患について
- ・高次脳機能障害の特性及び支援プログラム
- ・拠点機関での支援内容
- ・津山での家族会活動

#### ③ 地域リハビリテーション広域支援センター研修会

平成19年10月6日に、地域リハビリテーション広域支援センターへの研修を県北部に位置